

早期離床リハビリテーションチーム 誕生秘話と活動の様子

当院にはいくつかの医療チームがあります。感染対策チーム（ICT）、緩和ケアチーム、褥瘡対策チームなど、リソースナースの中には専門性を生かしてチームに所属している人たちがいます。

その中で今回は、平成30年4月1日に生まれたばかりの「早期離床リハビリテーションチーム」の誕生秘話と活動内容をお話します。



～誕生のきっかけ～
集中治療室入室後の早い時期からのリハビリを
充実させたかったから

集中治療室には、緊急入院や手術後など重症な患者さんが多く入室されています。昔は安静が大事だと言われた時代もありましたが、最近ではできるだけ早い時期にリハビリテーション（リハビリ）を始めて身体を動かした方が回復が早いということが分かってきました。

今までもリハビリは行っていましたが、看護師や理学療法士だけで行うには限界がありました。そこで、専門的な知識や技術を持つ医師・看護師・理学療法士を集結させることになり、早期離床リハビリテーションチームが誕生しました。

チーム結成当初は、試行錯誤が続く日々でした。しかし、現在は平日の午前中に3人で患者さんの状態について話し合い、主治医とも連携を図りながらリハビリを行っています。

実施件数は月に80～100件程度にのびります。



集中治療室のスタッフと協力して
継続したリハビリを行っています。

リハビリの効果も少しずつですが出てきています。例えば、心臓の手術をした患者さんが翌日には歩行していたり、退院前の活動レベルが術後でも自転車が漕げるぐらいまで回復していたりなどです。

平日は早期離床リハビリテーションチームがリハビリを行っています。土日祝日は集中治療室のスタッフが協力してリハビリを継続してくれています。



～リハビリ風景～
麻酔科医師、理学療法士、集中ケア認定
看護師でやっています。



集中治療室内を散歩している患者さんが増え、患者さんも医療者も笑顔が増えました。これからも患者さんの回復のお手伝いができるよう活動していきます。